病院概要

病　院　名	医療法人　井口野間病院
設　　立	１９５６年
病　院　長	杉原　弘治
診療科目	精神科　・　心療内科
病　床　数	２１６床 ・開放型男女混合病棟７０床（内PICU５床、特別個室１床） ・閉鎖男性病棟４６床　・閉鎖女性病棟５４床　・精神科療養病棟４６床
施設基準	精神科病棟入院基本料（１５：１）　・精神科療養病棟入院料
関連施設	デイケアぬくみ　・　精神科共同住宅南山荘

当院の特色

当院の特色をご紹介いたします。

・認知症専門治療　～認知症を抱えながら、よりよい生活を送るための援助～

①認知症のリスクの高い方に対する認知症予防法の指導
②症状の軽い方の早期発見・治療
③認知症の進行に伴う様々な問題や症状への対応

また、リハビリテーションにも力を入れており、「認知症予防リハ」、「認知症進行を遅らせるためのリハ」、「認知症にかかっても、よりよい生活を送るためのリハ」といった、その方にあった最善のリハビリテーションを提供しています。

・身体合併症治療

今日、精神科疾患や認知症性疾患を患う方の中に、その症状が原因で、高齢化に伴う肺炎などの内科的疾患の治療を一般の病院では十分に受けられないことがあります。
当院の副院長は内科総合医であり、内科医と精神科医が密に協力して身体の病気に治療にあたる体制を整えております。また、大学病院をはじめとした、高次の医療を担う専門医療機関と連携体制をとっており、必要に応じて、高度医療を提供する病院へ転院して治療を受けて頂くことも可能です。

・徹底した保清管理

当院の入院患者さんに褥瘡（じょくそう：＝床ずれ）の方はいません。管理栄養士における栄養管理をはじめ、各スタッフが日々患者さんの状態に気を配り、徹底した情報共有により患者さんのささいなことも見逃さないよう密接な看護を提供しています。また、作業療法士と共に口腔ケア、誤嚥・転倒などの院内事故予防ケアに努めています。入院中の生活が快適に過ごせるよう医療スタッフが一丸となって患者さんのケアに尽力しております。

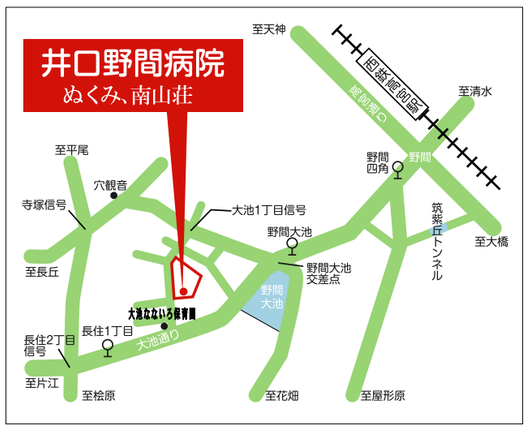
医療法人
井口野間病院
INOKUCHI NOMA HOSPITAL

〒815-0074 福岡市南区寺塚1丁目3番47号
TEL:092-551-5301　　FAX:092-553-8587
URL:http://www.inokuchinoma.com/

■診療科目／精神科216床（療養病棟46床を含む）
■診療時間／平日：　9:00～12:45　13:45～17:00
予約制
■面会時間／毎日：10:00～12:00　13:45～16:30

土・日・祭日は休診

交通のご案内
●天神から西鉄バス51･52番系統で35分、快速151･152番系統で25分
●博多駅から西鉄バス64･65･67番系統で40分
※長住1丁目バス停で下車、大池なないろ保育園の角を左折。
　野間大池バス停で下車、野間大池交差点を右方向、最初の信号を左折。
●西鉄高宮駅からタクシーで5分



井口野間病院広報誌

よつば

Vol.1
創刊号

新年明けましておめでとうございます。
当法人は井口淡先生が設立以来、潔先生が後継され昨年設立60周年を迎えることができました。
私もその節目の年に理事長に就任いたしました。まず我々取り組んだのが全員で考えることです。
私たちが出来ることは何なのか、私たちは何をしたいのかと言うことです。
私は当法人の理念を「私たちは患者さん、ご家族を援助します。」といたしました。
「援助」とは「患者さん、ご家族の苦しみを少しでも和らげ軽くし、できればなくすること」です。
苦しみは病気だけではありませんし、患者さん、ご家族の背景までも考え苦しみを知る、語ってもらうことが大切だと考えています。
当院は精神科、心療内科の病院として運営して参りましたが、患者さんの高齢化に伴い身体合併症の治療及び増加する認知症にも対応を迫られております。また都市型病院として気分障害(ストレス、うつなど)にもにも取り組んで参ります。昨年より院長、副院長先生方をはじめ、専門医師が常勤しております。
顔の見える病院を目指して再出発致します。皆様の御指導、御鞭撻宜しくお願いします。
最後になりますが　この新しい年がより佳き年になるよう心より祈念いたしまして、私からの年頭の挨拶とさせていただきます。

平成２９年１月
医療法人井口野間病院
理事長　高山成吉

よつばTOPICS!!

院長インタビュー！！

昨年4月に当院の院長に就任されました杉原先生にインタビューです。

Q1. 家族構成は？
妻、子供3人の5人家族です。

Q2. どんなお父さんですか？
基本的には"穏和"　"ピントがずれたところで突然怒る"どこで怒るか分からない（子供談）
夫としては家事をしないので･･･夫失格!? 化石の様な昭和男

Q3. 趣味は何ですか？
転校しても友人と話せることからアマチュア無線をはじめました。
中学時代からの仲間とやり取りをしたり、遠くはヨーロッパや南極の人と話したりしています。
今では、子供も無線の免許を取得しています。
運動は運動音痴なので大っ嫌いで全くしていません。学生の頃は文系、無線部に所属していました。
高いところは電波がクリアになるので無線のために脊振山や宝満山や油山など20kgの装備で登山したりしていました。
無線は震災の時などに役立ちますし当院で無線クラブを作るのが夢･･･！？

Q4. 好きな食べ物・嫌いな食べ物は？
嫌いな食べ物はブロッコリーです。それ以外の食べ物はなんでもOKです。奥さんは手料理が上手でなんでも美味しいので自慢の奥さんです。

Q5. 特技は何ですか？
鼻が利き、細かいにおいの違いが分かる。
家ではよく、"これ洗濯してる？"と洗濯物のにおいの違いを調べさせられています。また、アロマセラピーを勉強していたことがあります。

Q6. 休日の過ごし方は？
基本、ゴロゴロしています…トドのように。（笑）　時折、旧友と遊びに山やら居酒屋やらに出かけています。

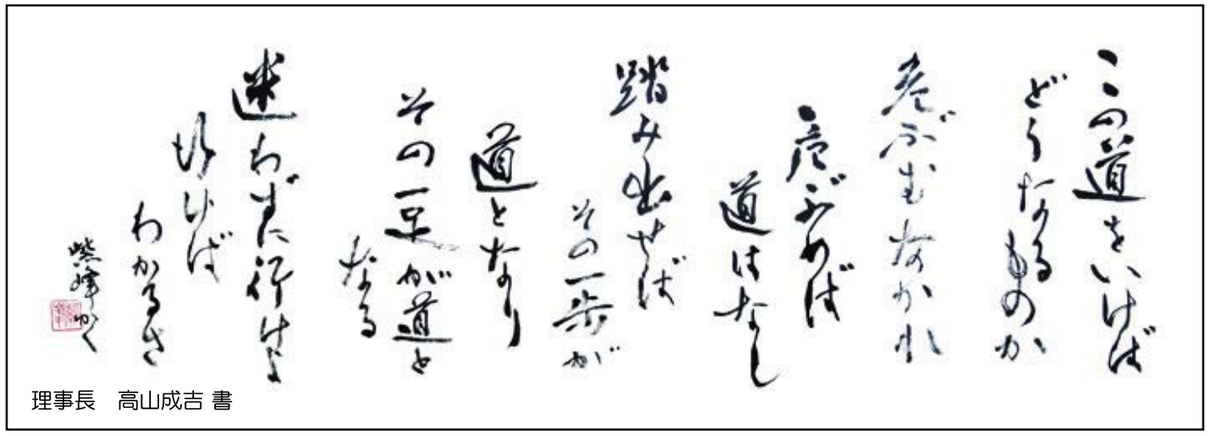
Q7. 好きな言葉（座右の銘）は何ですか？
『（人生）ふたつよいこと さてないものよ』
私の尊敬する心理学者　河合隼雄さんの言葉で、意味は何でもいい面、悪い面がある。奥さんをつかまえたきっかけでもあります。

Q8. 医学の道を選んだ理由、また精神科を選ばれた理由は？
パン屋を継ぐことに対する反発でしょうか。親はパン屋のあととりとして商売の勉強をしてほしいと思っていたようです。
青春時代の悩みを自分で治そう、精神科にかかったりカウンセリングを受けるより自分で勉強したら治せるのでは？と思うようになり、自分が救われたいと心理学に興味を持つようになりました。心理の大学へ行きその後、大分医科大へ進学し医者になりました。初めは臨床心理士を目指していましたが、同期に優秀な人がいて、違う道を選び精神科医になりました。

Q9. 今後どのような病院を目指していきたいですか？
"より地域に役に立つ病院"　"職員が働いてよかったと思える病院"

高齢化が進む中でこの地区に住んでいる方たちから仮に認知症になっても、本院があるから安心して暮らせるなと思われる病院を目指すのと同時に職員が働いてよかったと思える病院にしていきたいです。

井口野間病院のえがお



理事長　高山成吉 書